

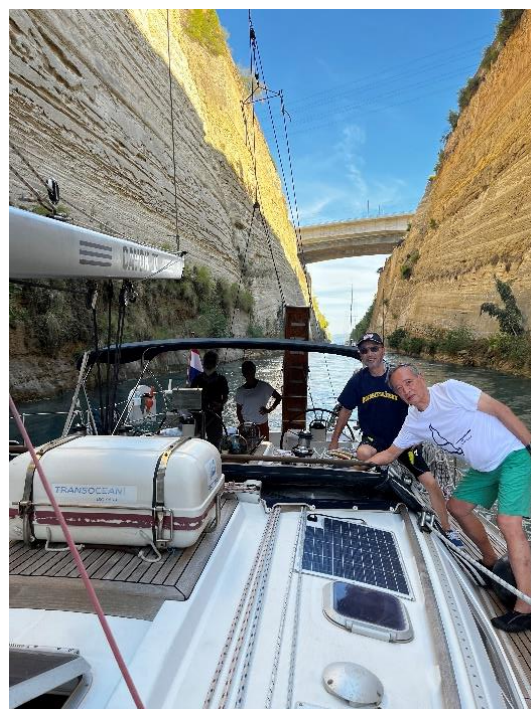
「イオニア海クルーズ」の報告

2023年9月12日～10月1日

昨年の「エーゲ海」に味をしめて、今年はイタリアに面した「イオニア海」に挑戦した。
今回はメンバー3名で、トルコ航空イスタンブール経由でアテネに。
最初のスタートは係留してあるポロス島(アテネ空港からバス・フェリーで)。ウエルカムドリンクを船上で楽しんでから、ラッキーにもお祭りが、子供たちは着飾って可愛い。



エーゲ海(ポロス島)からコリントス運河を経て、イオニア海に。この運河は去年は上から見ただけ、今年はヨットで通過。紀元前7世紀、ローマ皇帝ネロにより6000人の奴隷で着工、紆余曲折のすえ1893年に完成。全長6kmで、幅が狭いので相互片道で通過。





ギリシャ本土のハーバーに寄港して、バスでオリンピアの遺跡を訪れ、当時行われていた競走を思い走ってみた。採火式の場所があっさりとしたもの。壮大な神殿の遺跡をみると、ゼウスが神なのか、実在なのか混乱。



ヨットでの生活は時間が。島のストアーに肉類の入荷が無かったので釣りでヒラメを(何も釣れず)、泳いだり(海に浸かっただけ)、SAP(バランスをとれず)、将棋(快勝)俳句は「秋航路 風の音色に 耳をかす」が特選に。



同行の二人は、それぞれ「数独パズル」に熱中したり。ラインで報告、佐伯泰英(面白いよ)の本をシリーズで読んだりしていたが、私は今回の目的どうり、何もしない、ぼんやりとした時間を満喫。

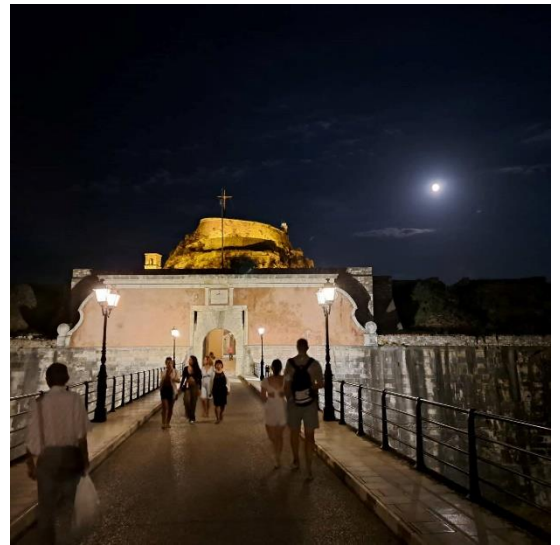


ヨットでの食事は重要。主に、キャプテン奥様が地元の食材を上手に工夫された料理を楽しみ、毎日ではご苦勞をかけるので、時には港のレスランで外食。食後はデッキで雑談、昨年は「安倍首相の国葬」について討論(反対意見は私のみ)で激論。今年は「そうだね」の同意見ばかりで、討論にならず。各人、好きな歌をリクエストし乾杯。私は「紅い花(ちあきなおみ)」。いい歌だけにワインがすすむ。



昨年のエーゲ海と、今年クルージングしているイオニア海は、同じギリシャなのに様違い、トルコに面したエーゲ海は草木が少なく白い建物と青い海が美しいが、イタリアに面したイオニア海は樹木の緑にあふれて入り江も多く、ヨットも多くでて、波もなくヨットライフを満喫している。我々も同様だ。

ギリシャには多くの世界遺産があり、パルテノン神殿をはじめ各島に遺跡が残されている。そのなかで最終日に寄港したイオニア海最大の島、ケフロニア島のハーバー近くの城壁、メリサニの洞窟(大きな鰻がいて水を飲みに来た鳩をパツクリと)で、今回の船旅を締めた。



昨年と大きな変化は「どこどこ」と物忘れ騒ぎが多かったことと、友人の置き忘れた携帯の目覚ましに睡眠妨害されたこと、ローテーションでの寝場所騒動など、いい歳をした連中なのに・・・(笑い)。昨年はPCでリアル報告をしたが、今年は21日間「情報断絶」。何もしないことに挑戦、いい経験をさせてもらった。感謝！

